



【健康の集いが開催されました。2～3頁】

目次

- 「健康の集い」が開催されました … 2～3
- ねっとわーく
 - 佐藤医院 …………… 4
 - かやの木診療所 …………… 5
- がんサロン開催のお知らせ …… 4～5
- がんの医療連携と
地域連携クリティカルパスについて … 6
- 検査の窓 …………… 7
12月1日は、「世界エイズデー」
- 話題の広場 …………… 7
ブルーイルミネーションでアピール
- 職場紹介 …………… 7
リハビリテーション科 その②（作業療法士）
- ご案内 …………… 8
かかりつけ医を持ちましょう
- 新任医師の紹介 …………… 8

飯田市立病院 基本理念

私たちは、地域の皆さんの健康を支え信頼される医療を実践します

飯田市立病院 基本方針

- 1 私たちは、安全・安心で良質な医療を提供します
- 2 私たちは、患者さんの権利と意思を尊重し、地域の皆さんに開かれた病院づくりを行います
- 3 私たちは、地域の保健、医療、福祉機関と密接に連携します
- 4 私たちは、教育・研修機能を高め、医療水準の向上と人間性豊かな医療人の育成に努めます
- 5 私たちは、公共性と経済性を考慮し、健全な病院経営に努めます

飯田市立病院 理念行動指針

私たちは、誠意 熱意 創意をもって医療を実践します

「健康の集い」が開催されました

10月22日（土）に2011健康の集いを開催しました。

このイベントは、昨年行った病院祭の後継イベントで、地域に開かれ、地域に親しまれる病院づくりなどを目的にしたものです。また、サブテーマを、「大災害に病院としてどう備えるか」とし、東日本大震災を経験された石巻赤十字病院の西條美恵感染管理認定看護師の講演会を行いました。このほか、手術体験コーナー、医療職進路相談、院内見学ツアーなどを行い、約500名の来場者がありました。参加された方には、それぞれイベントを愉しんでいただくことができました。



東日本大震災特別講演会

東日本大震災の現場から 学んだこと、今後に活かすこと

～医療者として、そして被災者の立場から～

講師：石巻赤十字病院（宮城県石巻市）

西條 美恵（さいじょうみえ） 感染管理認定看護師



2011年3月11日14時46分、三陸沖を震源に国内観測史上最大M9.0の地震が発生し、死者行方不明者約2万名という未曾有の大災害となりました。今回の大震災は、「想定外」という言葉が聞かれました。ことごとく地震と津波によって破壊された惨状の中で、石巻赤十字病院は新築の際、沿岸から4.5km先への移転・免震構造建設により、地域の中で唯一ほぼ無傷で残りました。また常日頃から物心ともに準備と訓練が行き届いていたため、発生4分後の対策本部設置・1時間後には被災者受入態勢を整備したという驚異的な災害体制を敷きました。石巻赤十字病院は、この地震をある程度想定していたのです。しかし、電気が止まった街でただ一つの灯りとなった石巻赤十字病院には、3日間で2,800名もの救急患者が訪れ、次々と遺体が運び込まれ、家族を探す声・遺体を見て泣き叫ぶ声・家族が見つからないいらだちからの怒号なども飛び交い、まさに野戦病院と化したのでした。西條看護師も発生1週間は不眠不休の状態での病院で寝泊りしたそうです。また、西條看護師もそうですが、家族が被災して亡くなったり、安否不明だったり、極限状態での苦闘の日々が続いたのでした。今回の大災害はまだ全てが終わったわけではありませんが、当面の危機を乗り越えた西條看護師達を支えたのが、職員の災害救護に対する意識の高さ、いつ大震災が来てもいいという設備・物資の準備状況でした。我々飯田市立病院も石巻赤十字病院と同じく災害拠点病院です。見習う部分が非常に多い講演でした。



医療法人健進会

佐藤医院

(根羽村)



村の医者

医療法人健進会 佐藤医院院長 佐藤 健

当院は父 佐藤進が昭和21年に、根羽村に開業して63年が経ちました。

私は、愛知医科大学を卒業して当大学の第一内科（消化器、糖尿病、透析）に入局し、途中、麻酔科、救急救命科で研修して、静岡県の掛川市民病院内科に勤務して、平成3年に根羽村に帰ってまいりました。根羽は、生まれ育った土地であり、帰って父を継ぐことを望んで実現することができました。

父がやってきた、いつどんな時でも、患者さんからの依頼があれば、断ることなく診るとい村の医者を目標にやってきま

した。地元の患者さんは地元で診るという考えで、急性期、慢性期の疾患を診ております。当院でも、心電図、超音波胸部、腹部レントゲン、内視鏡等の検査を行い、患者さんたちが、遠い所に行かなくてもいいようにしております。しかし、高度な検査、治療が必要な時は、市立病院にお願いしております。いつも、市立病院の先生方には、無理を聞いていただき感謝しております。根羽村の人々には、自宅のタタミの上で最後をむかえら

れるよう、終期を診とっていきたいと思っております。

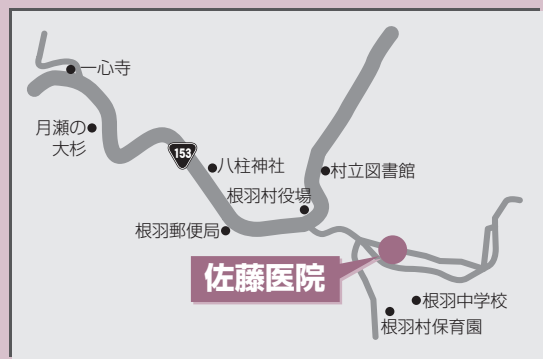
最後の砦として市立病院を頼りにしております。

今後ともよろしく申し上げます。



佐藤先生(左)とスタッフ様

所在地	〒395-0701 下伊那郡根羽村1850-1 ☎0265-49-2011
診療科目	内科・小児科・産婦人科
診療時間	午前診 9:00~11:30【月~土曜日】 午後診 17:00~18:15【月・水~金曜日】 15:30~16:30【火曜日】
休診日	日曜日、祝日、第2・4土曜日
往診	可
駐車場	あり



がんサロン開催のお知らせ

飯田市立病院では、がん患者さんやそのご家族を対象にしたがんサロンを本年7月から毎月開催しています。

がん患者同士の会話により不安や孤独感を和らげる場所、がんに関する情報の提供や交換、共有の場となることを目的としています

サロンでは、医師や看護師、薬剤師、栄養士、臨床心理士などの医療スタッフによるミニレクチャー（学習会）や患者様同士のフリートーク（交流会）などを行っています。

他の病院に通院中の人も含めてどなたでも参加できます。話をするだけ



登録医紹介

登録医とは共同診療、検査機器の利用、研修参加などを一緒に行って、より良質な医療を地域の皆様に提供するため、協力いただいている医療機関です。

かやの木診療所

(飯田市中村)



地域に根ざす診療所として15年

診療所長 中村 清

かやの木診療所は、医療法人(社団)健和会の1番目の診療所として、97年5月に開所しました。地域に根ざす診療所として、多くの地域の方に支えられながら、15年目を迎えることが出来ました。内科、消化器科、小児科を標榜し、第一次医療を中心に展開しております。電子カルテシステムのおかげで、健和会病院との連携もスムーズです。また、PET-CTなどの高度な検査と高度の専門治療が必要なケースについては、市立病院にお願いすることが多々あります。

介護事業も併せて展開してお

り、デイケア(通所リハビリ)を併設して行っております。作業療法士、理学療法士を計2名を配置し、トレーニングマシンを多く設置することで、訓練を充実させています。季節の行事を行いながら、多くのボランティアさんの力をお借りしつつ活気あふれ、アットホームな雰囲気の中で皆さん過ごして頂いてます。

健和会グループの一員であること、そしてこの飯田下伊那の各医療機関との連携

がとれる強みを活かして地域の皆さんのお役に立てる事業運営をめざしております。今後ともよろしくお願いいたします。



中村先生(前列)とスタッフの皆様

所在地	〒395-0156 飯田市中村76番地1 ☎0265-25-8112
診療科目	内科・消化器内科・小児科
診療時間	8:30~11:30 / 15:00~16:30 【月・火・木・金曜日】 8:30~11:30 【水・土曜日】
休診日	水曜午後、祝日、日曜日
往診	可
駐車場	あり



でも、聞くだけでも解決の糸口が見えたり、気持ちの整理がついたり、元気になれることもあります。

どうぞ気軽にお立ち寄りください。

◆開催日時: 毎月第1水曜日 14:00~15:30

◆場所: 市立病院2階人間ドック休憩室

※事前申込み及び参加費は不要です。

問い合わせは 市立病院がん相談窓口

☎0265(2)1255内線2191まで。



がんの医療連携と 地域連携クリティカルパス —第5回—

地域の医療機関と患者さんが一体となった「がん医療」を実現するために

■医療は「病院完結型」から「地域完結型」へ

従来の「病院完結型」医療から、各医療機関の特性や施設基準等を踏まえた地域内の役割分担に基づいた「地域完結型」医療へと医療情勢が変化してきています。こうした背景には、患者さんの医療費負担増の問題や、生活習慣病その他慢性疾患が著しく増えていることなどがあります。

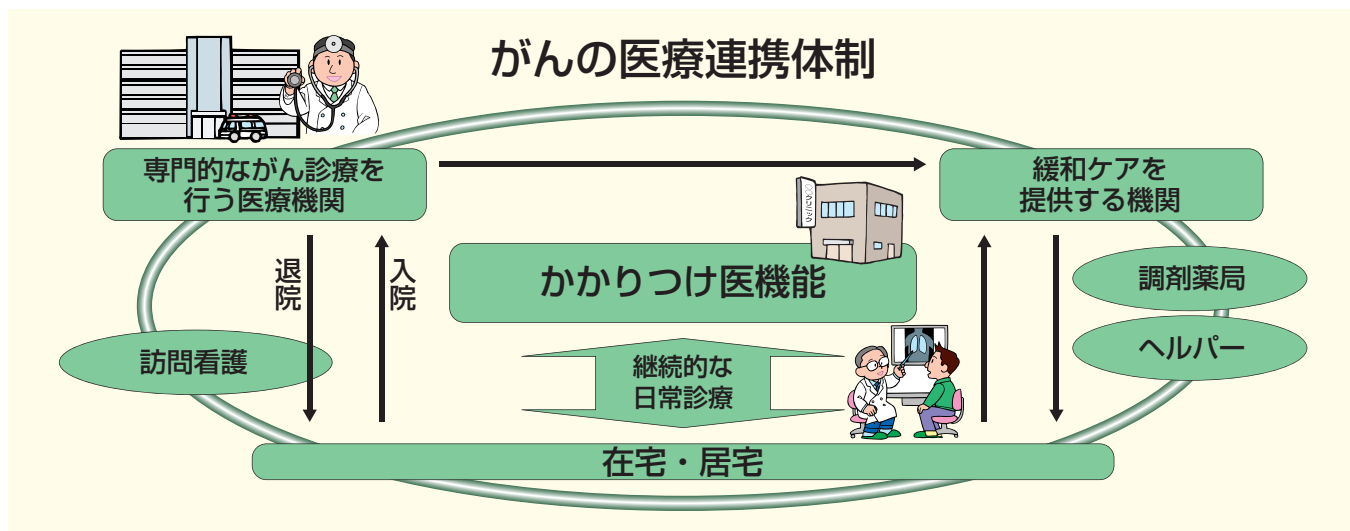
こうしたことから、患者さんが、ご自身のお住まいの地域内で、効率的かつ安心・安全で水準の高い医療が受けられるように、各医療機関は特性と役割をより明確に打ち出していくことが必要であり、地域内における機能分化を図りながら、患者さんを地域内で支えるための連携体制を整えていくことが重要とされています。

■地域独自の医療体制の実現を目指す

地域全体の医療連携が体系化され、医療水準の底上げや治療方法の平準化がさらに進むことで、患者さんは、これまでのように、手術や急性期の治療を行った病院に、状態が安定した後もなお通院するといった必要がなくなります。手術等を担当した病院の医師と地域のかかりつけ医の先生が一定の治療方針に基づいた診療計画書を共有し、それぞれの機能と役割に沿った治療を分担して行っていくので、患者さんは受診の効率化と費用負担の軽減に繋がりますし、医療者側もそれぞれが果たすべき本来の役割に基づいた診療・治療に専念できるため、質の高い医療を提供できるという大きなメリットがあります。

急性期医療や高度医療、精密検査等は、病院（がん診療連携拠点病院など）が担当し、日常診療（経過観察診療や投薬など）は、お近くのかかりつけ医の先生が担当する、そんな役割分担に基づいた連携医療がしっかりと確立されれば、がん治療の多くは、お住まいの地域内で十分に完結できるようになると考えられます。

医療費の高騰、病院での待ち時間問題、地方での医師不足、病院勤務医の負担増など、様々な問題が全国的な課題となっていますが、これらを解決するためには、医療分野における地域コミュニティの再構築が必要です。患者さん、医療機関、薬局等が、互いを尊重し、認め合い、協力してがん治療に取り組むという意識を高めていくことが大切なのではないでしょうか。



検査の窓

その21

12月1日は、「世界エイズデー」

エイズ（後天性免疫不全症候群）は1981年アメリカで初めて報告され、世界中を恐怖に陥れてから30年が経ちました。その後1988年に世界保健機関（WHO）によってエイズのまん延を防ぎ、感染者と患者に対する差別や偏見をなくしていく日として12月1日を「世界エイズデー」と定められ、世界各国でエイズに関する啓発活動が行われます。

国内での昨年のHIV感染者報告数1050件、エイズ患者報告数453件と前年と比較して増加しています。HIVに感染してもエイズを発症させない治療によって完治は困難でも「死の病気」ではなく「生涯つきあっていく病気」になりました。早期発見、早期治療のためにあなたも検査を受けてみませんか。

エイズ治療拠点病院である当院ではエイズ検査は無料で、受付から60分ほどで報告することができます。



UNAIDS（国連共同エイズ計画）のシンボルマークのレッドリボンは、エイズに関して偏見をもっていない、エイズとともに生きる人々を差別しないというメッセージです。



ブルーイルミネーションでアピール 第47回全国糖尿病週間

(11/14~11/20)

現在糖尿病患者は世界的に増加し、日本でも40歳以上の3人に1人が糖尿病あるいは予備軍とされています。11月14日の世界糖尿病デーには世界各地で糖尿病抑制に向けたキャンペーンやイベントが行われました。当院でも11月14日からの全国糖尿病週間に合わせ、この運動のシンボルカラーであるブルーのイルミネーションで玄関前を飾り、この世界的な運動をアピールしました。



玄関前のブルーイルミネーション

シリーズ ● 職場紹介 ● その30

【リハビリテーション科の紹介 その②（作業療法士）】

作業療法(OT)とは、身体や精神に不自由さをもつ方々に、作業(手工芸や日常社会生活動作の全て)を通して治療をし、主体的な生活の回復をお手伝いする、リハビリテーションのひとつです。

当院リハビリテーション科作業療法室では、脳卒中などの病気や、腱断裂や事故等のけがによって、主に上肢や手に障害をもった身体障害の方と、

脳性麻痺等による肢体不自由や、自閉症や遅れ等の発達障がい子ども達に関わらせて頂いています。

スタッフは6名。“ひとは作業をおこなうことで元気になれる”という日本作業療法士協会のことをモットーに、患者さん達の身体と心に向き合い、患者さんたちと一緒に頑張っています。

どうぞよろしくをお願いします。





ご案内

かかりつけ医をもちましょう

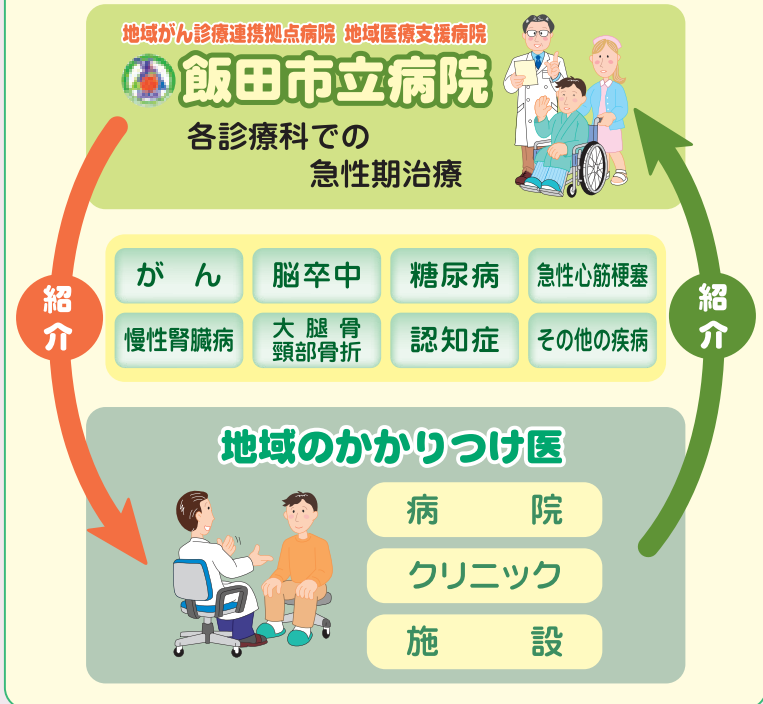
飯田市立病院では、「かかりつけ医」の先生方との医療連携を積極的に行っております。

当院での治療が完了したときや、病状が安定したときは「かかりつけ医」の先生方に診ていただくことを積極的にお勧めしています。

かかりつけ医をお持ちになって、飯田市立病院を上手にご利用下さい。

飯田市立病院に初めてかかる場合（新しい診療科を始めて受診する場合は、かかりつけ医の先生からの「紹介状」による予約受診をお勧めしております。スムーズで安全・安心な医療をお受けいただくためにも、是非ご理解とご協力をお願いします。

疾病別ネットワーク



あ と が き

健康の集いで西條看護師の講演で、東日本大震災の想像を絶する惨状を目の当たりにしました。この目を覆いたくなるほどの惨事に対し、石巻赤十字病院の職員が勇敢にしかも迅速に対応し、それぞれの立場で全力を尽くし困難を乗り越えたことには心から感動しました。ただ、病院職員の多くが3/11から3日間ほどの記憶がないそうです。いかに衝撃的な事態であったか、いかに緊迫した時間が続いたかが推察できます。この経験は言葉にすることも、思い出すことすらもつらいでしょう。しかし、つらくとも伝えていかなければならないという意気込みが西條看護師から感じられました。私たちもいつこのような大災害に直面してもいいように、できることはやっておかなければならないと痛感しました。「石巻赤十字病院の100日間（小学館）」を是非お読みください。医師・看護師・病院職員のまさに苦闘といえる100日間が事細かに記録されています。

編集委員 大野英彦

新任医師の紹介

平成23年7月～10月



救急科
佐藤 貴久
(さとう たかひさ)
平成14年3月卒業
平成23年10月1日着任
前勤務病院
信州大学付属病院



産婦人科
安藤 大史
(あんどう ひろふみ)
平成19年3月卒業
平成23年10月1日着任
前勤務病院
市立大町総合病院



歯科口腔外科
草深 佑児
(くさふか ゆうじ)
平成20年3月卒業
平成23年10月1日着任
前勤務病院
信州大学付属病院



耳鼻咽喉科
市瀬 彩
(いちのせ あや)
平成18年3月卒業
平成23年10月1日着任
前勤務病院
相澤病院